

農福連携

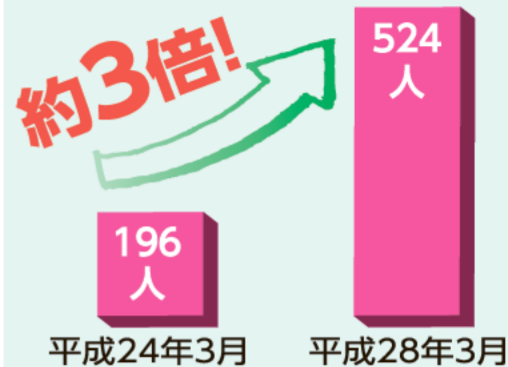
障がい者の皆さんが農業で生き生き働ける場をめざして

障がい者が農業の新たな担い手として活躍できるよう、農業への福祉事業所の参入支援や障がい者の就労促進など、農業分野と福祉分野の連携（農福連携）を推進しています。



現在、県内で農業に携わる障がい者は、取り組みが始まった4年前の約3倍にあたる524人と着実に増えています。地域農業の中心的存在となる福祉事業所も生まれるなど、農業を支える新たな担い手として、障がい者の活躍が期待されています。

農業分野で就労する障がい者数



将来の農業の担い手と障がい者との交流



農作業を通じた交流

県農業大学校では、平成25年に新たなカリキュラム「農業と福祉」を開講し、障がい者福祉の基礎を学ぶとともに、農作業を通じて障がい者の皆さんと交流する実習を行っています。

このカリキュラムをきっかけに、福祉事業所で障がい者に農業を教える仕事に就いた事例や、新規就農し、農作業の一部を障がい者に委託する事例が出てくるなど、農業と福祉をつなぐ人材が着実に育っています。

農業と福祉をつなぐ人材育成

障がい者を支える農業ジョブトレーナーの育成

農業ジョブトレーナーは、障がい者の特性や適性を理解した上で、障がい者が自信と誇りを持って農業に取り組めるよう支援する、農福連携に欠かせないキーパーソンです。

種まき、植え付けから収穫、肥料や農薬の散布など、さまざまな作業がある農業には、得意分野を生かせる作業が必ずあります。どんな仕事もチームで進めていくのが農福連携の特徴です。



指導員の話に熱心に聴く特別支援学校の生徒

農業のユニバーサル化をめざして

農業には、複雑な機械操作や長年の経験が必要な作業も少なくありません。しかし、補助器具の開発、複雑な作業の分割、作業工程の見える化、指示伝達やコミュニケーション手法の見直しなど、工夫を行うことで、障がい者も効率良く農作業に取り組むことができます。

さまざまなアイデアの検証を重ね、改善に結び付けることで、障がい者が農業で活躍できる場を広げていきます。



芽の状態を見極めながらナバナを収穫

農業技術の学びの場を提供

障がい者の農業技術習得を支援



トマトの栽培研修中、着色具合を丁寧にしながら収穫

農福連携では、地域農業を支える人材育成とともに、障がい者の自立につながる、収益性のある農業をめざしています。障がい者向けの研修や農業普及指導員による特別支援学校での実習などを行い、学ぶ機会を提供しています。

作業の必要性や目的も学ぶことで、仕事に対する前向きな気持ちも芽生えます。ある学校では、難しいといわれているイチゴ栽培にチャレンジ！おいしいイチゴをたくさん収穫するという新たな目標を見つけ、目を輝かせながら農作業に取り組んでいます。

これからの農福連携について、皆さんとともに考えます！ 農福連携全国サミットinみえ

1日目 11/30(水) 三重県総合文化センター

フォーラム 10:00~16:40 定員 400人

基調講演 プロジェクトめむろ ~新しい農福連携のかたち~
株式会社ダックス四国 且田 久美氏

実践報告 植村牧場株式会社 (奈良市) 黒瀬 礼子氏
社会福祉法人一麦会 (和歌山市) 大中 一氏

パネルディスカッション テーマ「農福連携の未来に向けた提言」
コーディネーター 一般社団法人JA 共済総合研究所 濱田 健司氏
パネリスト 農林水産省経営局金融調整課 山口 靖氏
且田 久美氏、黒瀬 礼子氏、大中 一氏

多目的ホール

マルシェ 10:30~15:30

県内外30の農福連携事業所等による
農産物・農産加工品の展示販売
《販売予定商品》
イチゴ、コマツナ、リーフレタス等の生鮮野菜、ジャム、パン、ケーキ、クリスマス・お正月用寄せ植え等



参加者募集中

参加無料

2日目 12/1(木) 9:00~15:30 定員 各コース40人

県内農福連携の実践事例の現地視察（2コース）

コース1 イシイナーセリー（鈴鹿市）・あさひファーム（桑名市）
コース2 アクティブ鈴鹿（鈴鹿市）・八重田ファーム（松阪市）

1日目のフォーラム、2日目の現地視察は事前登録制です。
以下の専用ホームページよりお申し込みください。

<https://amarys-jtb.jp/nouhukurenkeisummit/>

申込締切 10月31日（月）

三重県から農福連携の社会的効果を広く発信し、全国的な取り組みへの拡大をめざします！

主催 三重県、一般社団法人三重県障がい者就農促進協議会 後援 農林水産省、厚生労働省